

PC建築部会長

宍戸 宏

株式会社建研
代表取締役社長

2019年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には平素より、プレハブ建築協会並びにPC建築部会の活動に、多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は一昨年に続き、優良企業による検査データの改ざん・不正等や、日本を代表する企業の不祥事があり、日本の「ものづくり」の信頼が大きく損なわれる状況になりました。この問題に対岸の火事としてではなく、PC建築部会としても、品質管理体制の充実と顧客の信頼確保の必要性を再認識した一年でありました。

また、昨年は、台風・豪雨による風害・水害・土砂災害が多数ありました。地震の発生もあり日本列島は多くの自然災害に見舞われ、改めて日本は災害立国であることを痛感し、建設業界・PC業界の社会への貢献・役割について、真摯に考える機会となりました。

このような環境の中で大都市圏と地方圏の経済格差は益々進み、大きな二極化になっています。建設業界も大都市圏での需要は底堅いものが有り、堅調に推移しています。特に首都圏においては、2020年東京オリンピック・パラリンピック後についても、再開発事業・インフラ整備等の需要があり、建設需要の見通しがあり期待されています。しかし分譲マンション需要については、やや減少傾向にあり厳しい状況になりつつあります。また、地方圏においては人口減とともに、建設需要はかなり低迷してきています。このような中で、人手不足・熟練工の高齢化など建設業界を取り巻く環境は、毎年厳しくなっていくと思われま

す。建設業界全体としては、公共投資が減少している厳しい環境の中、大型インフラプロジェクトであるリニア中央新幹線、北陸新幹線の延伸、大阪万博の開催等の波及効果が、建設需要の増加につながる

ことが期待されています。

大都市圏・地方圏を含めて建設業界の人手不足・熟練工の高齢化の問題は年々大きくなってきています。問題解決の一つとして建築物のPC化があります。直近の状況として壁式PC工法や、ラーメン式PC工法による中高層共同住宅の建設があり、PC化による一般建築など適用範囲が大幅に拡大されております。

このような環境の中で、PC建築部会においては今後とも、「PC部材品質認定事業」・「PC構造審査事業」・「PC工法施工管理技術者資格認定事業」・「PC部材製造管理技術者資格認定事業」の4つの事業を強化・継続して、PC工法による建築物の品質確保に努め活動して参ります。

今年も各方面の方々に、在来工法に比べたPC工法の優位性・多様性・特徴などをご説明していきます。特に、工場で製造されたプレキャスト部材の品質の高さをPRし、PC建築のさらなる発展・普及を目指して活動して参ります。今後とも、皆様方の格別のご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各社様の社業の益々の発展と、今年一年の皆様方のご健康、ご多幸を心より願いしまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。